

森は海の恋人（４） 3つの循環

自然界には様々な循環がありますが今回はそのうちの3つの循環をごく簡単にお話しします。

（水の循環）

おそらく山屋にとってはこれが最も身近な循環でしょう。

海の水が蒸発して大気に溶け込み、水分を含んだ空気が日本列島に流れてきて、山に沿って上昇し、飽和量を超えた水分が雨となって日本列島に降り注ぐ。

山に含まれた雨水は地中で濾過されながら、地表に出ることなく地中を下って海の底から湧き出る（海底湧水）。また地表に湧き出た水は川となって海に戻る。

地中に含まれた水は濾過されつつ地中の微生物によって豊富な栄養素を含むようになりその栄養素を海に運ぶ役割を果たしています。

（命の循環）

例えば、

「森には風倒木が倒ればなしになっている。実に無駄な光景に見える。

ところがこの風倒木は無駄なように見えてとても貴重な資源であって、倒ればなしになっていると、そこに苔が生える、微生物が発生する、バクテリアが繁殖する、土を豊かにする、小虫が発生する、それを食べるモグラやネズミのような小動物がやってくる、またそれらを食べる鷹などの猛禽類もやってくる。

森に湿り気を与える、乾かない。川を豊かにする。森を豊かにする。すべてがつながり合っている。だからこの風倒木のことを森を看護しているということで「Nurse-log」と呼ばれる。」

数年前、開高健の真似をして僕が書いた文章をそのまま転載しました。

また星野道夫の言葉を借りれば、

「内なるシグナルで動く野生のはかなさ。他の生命を奪い、取り入れることでつながっていく生命。グリズリーもカリブーも人間もその循環の中にいる。」

（炭素循環）

最もなじみの薄い循環でしょう。ごくごく簡単に。

動植物は苔や草木であれ、微生物・昆虫・人間であれ呼吸をしていて、体内に空気を吸い込んで二酸化炭素を吐き出しています。葉緑素のある植物は光合成をしていて体内にその二酸化炭素を吸い込んで酸素を吐き出しています。地球上に生物が誕生して以来これまでこのことが繰り返されながら大気中の二酸化炭素の量はイーブンに保たれています。これをカーボンニュートラルと言います。

今回はこのカーボンニュートラルについてです。

推薦DVD：河は眠らない 開高健

推薦図書：旅をする木 星野道夫著

TENSION 井上好司